

山岡鉄舟と三遊亭圓朝の生涯と時代の流れ

西暦	年号	世の中の動き	山岡鉄舟の年表()は年齢	三遊亭圓朝の年表()は年齢	その他二人に関わる人物や事項
1836	天保7年	天保の大飢饉ピーク	小野朝右衛門(900石)の4男として、本所大川橋に誕生		・坂本竜馬誕生 1823年生まれ(14)勝海舟、1828年生まれ(9)西郷隆盛
1837	天保8年	モリソン号事件・大塩平八郎の乱			(2)高橋泥舟
1838	天保9年	徳川斉昭『戊戌封事』(内憂外患の国への意見書)			
1839	天保10年	笑齒会「蛮社の獄」で高野長英・渡辺華山ら逮捕へ		(出淵次郎吉)江戸湯島で生まる。父は二代目圓生門下橋屋圓太郎	
1840	天保11年	天保の改革始まる 清国アヘン戦争に敗れる		(2)10月寄席全廃の触れが出る	
1841	天保12年	改革の槍玉 歌舞伎三座・見世物小屋浅草裏に追われる		(3)11月女義太夫と席亭処罰。	天保の改革により寄席・歌舞伎などが規正を受ける。
1842	天保13年	天保の改革、寄席も厳しい制限を受ける		(4)寄席も厳しい制限を受ける	
1843	天保14年	11月水野忠邦罷免 天保の改革終る			
1844	弘化元年	阿部正弘が老中、遠山景元大目付	(9)久須美閑適斎より神陰流(直心影流)剣術を学ぶ	(6)新政策により寄席の数60軒になる	寄席小屋の数が戻りはじめる
1845	弘化2年	水野忠邦最復帰も失脚。改革三悪鳥居・渋川・後藤処分	(10) 父飛騨群代になり高山へ 北辰一刀流井上清虎に剣を学ぶ	(7)橋屋小圓太の名で江戸橋「土手倉」の寄席で初高座	
1846	弘化3年	浦賀にアメリカ軍艦コロバス初来航		(8)義兄らのすすめで寄席を退き、下谷池の寺子屋山口へ通う	
1847	弘化4年	徳川斉昭の七男(後の徳川慶喜(11))一橋家に養子入り		(9)二代目圓生の家に住み込み修行	
1848	嘉永元年		(13)剣禅一如のはじまり。禅を学ぶ	(10)「落語奇奴部類」に小圓太父子の名掲載	(28)海舟蘭学塾を開く
1849	嘉永2年				
1850	嘉永3年		(15) 書道の師・岩佐一亭より入木道五二世を譲られ「一楽斎」名乗る	(12)母・兄の勧め下谷の紙・両替商葛西屋奉公2年程病を得て帰る	
1851	嘉永4年	浅草・両国、歌舞伎見世物大ブーム、J万次郎土佐へ帰国	(16)母塚原磯 死去(41歳)	(13)歌川国芳門下で修行、また病を得て帰るも寄席出勤するうち病気全快	
1852	嘉永5年		(17)父小野朝右衛門高福 死去 弟たちを連れて江戸に到着 異母兄・鶴次郎の下に身を寄せる。井上清虎の援助で講武所入り	(14)義兄の住持する谷中の禅寺長安寺に母と共に移る	(17)泥舟、母方高橋家の養子に (32)海舟 幕府に海防意見書提出
1853	嘉永6年	ペリー浦賀に来航・プチャーチン長崎来航			(33)海舟長崎海軍伝習生徒監督
1854	安政元年	米及び英露とも和親条約	(19) 同時に山岡静山に槍術を学ぶ 静山弟謙三郎＝高橋泥舟	(16)義兄にすすめられ、落語上達のためにと座禅の修行にはげむ	
1855	安政2年	安政の大地震発生 幕末の騒乱始まる	(20) 静山急死。妹の英子(ふさこ)の婿となる千葉周作門下で修行	(17)初代圓生墓前で三遊派再興を誓う三遊亭圓朝を名乗る、弟子二人	
1856	安政3年	米総領事ハリス着任 篤姫(天璋院)家定に輿入れ	(21)講武所の世話役になる	(18)池の端七軒町の表店に移転父母をひきとる 7月 初代志生生歿	
1857	安政4年		(22)剣禅二道に精進する「修身要領」作る		
1858	安政5年	米英仏と通商条約 徳川家茂十四代将軍	(23)「宇宙と人間」の一編作る	(20)浅草茅町の裏店に移転 鳴物入り道具仕立て芝居漸をはじめ好評	
1859	安政6年	安政の太獄	(24)清川らと尊王攘夷党結ぶ	(21)師圓生を仲入前にたのみ、真を打つ「累ヶ淵」などの自作自演	・鉄舟22～24歳の頃小川町によく来ていたという。書道用の和紙を求めてか？食料の調達か？
1860	万延元年	3月桜田門外の変 井伊大老暗殺される 遣米使節団	(25)清河八郎らと尊王攘夷を標榜する虎尾の会結成	(22)師圓生と不和になるが、師の病気を聞き援助「菊模様皿山奇談」	(38)海舟咸臨丸で米国(5ヶ月)
1861	文久元年	東禅寺事件 尊王攘夷運動頻発		(23)浅草中代地表店に移転 兄玄昌小石川是照院住職「牡丹燈籠」創作	(39)海舟砲術指南役
1862	文久2年	坂下門外の変 生麦事件 朝廷圧力文久の改革	(27)将軍家茂警護、浪士隊結成(新選組の前身)率い取締役で上洛も	(24)8月師圓生逝去。下谷大正寺に葬る 11月兄玄逝去	(40)海舟軍艦奉行 坂本竜馬門下
1863	文久3年	将軍家茂上洛 薩英戦争	(28) 清河を警戒する幕府に江戸へ戻される清河殺害、鉄舟謹慎		
1864	元治元年	筑波挙兵 蛤御門の変 神戸海軍総練所6月設置→10月閉鎖	(29)中西派一刀流浅利美明に破れ、師事する	(26)名席・両国垢離場の「昼席」で真を打つ好評を博す	
1865	慶応元年	長州統幕へ薩長急接近	(30)長男直記誕生 川口・長徳寺願翁和尚に参禅	(27)師圓生の遺言に従い、三周忌に本葬を営む	(42)海舟安房守になる 塾居後大坂で西郷(37)と初めて会う
1866	慶応2年	徳川慶喜、十五代将軍 勝 長州征伐の停戦交渉	(31)鉄舟山岡高歩と署名 鉄舟初見	(28)母の希望で浅草裏門代地に移転	
1867	慶応3年	大政奉還 王政復古の大号令	(32)徳川慶喜警護役の精鋭隊頭になる		(33)泥舟幕府警護遊撃隊頭
1868	明治元年	1月 鳥羽伏見戦争 5月上野の戦争7月 江戸・東京と改称	(33)3月 慶喜の命を受け、西郷隆盛と談判。江戸城無血開城へ((30)お里との間に朝太郎誕生	(46)勝海舟幕府海軍奉行 (34)泥舟、海舟と囃り慶喜を寛永寺に退去させる
1869	明治2年	5月函館戦争終結 藩籍奉還	(34)駿河で静岡県権大参事／清水次郎長と出会い 咸臨丸事件	(31)茅場町の寄席宮松亭の昼席に出演 柳橋の芸妓、お幸を妻に迎える	『宮さん宮さん』の唄(トコトンヤレ節)、歌われる 鉄舟・海舟・泥舟駿府へ
1870	明治3年	神道を国教とする大教宣布 廃仏毀釈運動	(35)静岡で旧幕臣の処遇処置に尽力 龍沢寺星定禪師に参禅		10月 寄席取締に関する布告 静岡藩主徳川家達(16代当主7歳)
1871	明治4年	欧米使節団 廃藩置県	(36)茨城県参事、伊万里県知事	(33)「菊模様皿山奇談」山々亭有人の補筆で出版 父、圓太郎歿	(37)高橋泥舟と号す
1872	明治5年	新橋～横浜間に鉄道開通 西郷留守内閣の行政改革	(37)西郷の推挙により、10年の期限で、明治天皇の侍従となる		政府、芸能新政策として啓蒙勸懲主義を奨励 鉄舟不平士族の鎮撫のため茨城伊万里
1873	明治6年	西郷朝鮮派遣問題で参議辞任	(38)5月皇居炎上*三島の龍沢寺の星定和尚について参禅(3年間)	(35)弟子圓案に三代目圓生を継がせる、圓朝素漸に転向する	(38)泥舟静岡藩大属席を辞して引退する (50)海舟赤坂氷川町へ移転
1874	明治7年	佐賀の乱 板垣退助民権の立志社興す 台湾出兵	(39)西郷隆盛説得のため、内勅を奉じ九州に差遣せらる	(36)ニュース性のある話を高座にかけ9月 寄席の手踊禁止	(51)海舟参議海軍卿 (46)西郷薩摩へ帰る
1875	明治8年	大久保独裁政権の孤立化 江華島事件	(40)宮内大丞となる 奈良県へ勅使として派遣	(37)怪談会を催す	
1876	明治9年	熊本神風連の乱 秋月の乱 萩の乱 地租改正反対の一揆	(41)皇后相模行幸の供、円覚寺 洪川禪師に参禅	(38)「塩原多助」創作を発意 日光・沼田方面を調査。朝野新聞「圓朝伝」掲載	・東京府演芸人税を定める 寄席睦連三代柳橋頭取、圓朝・六代文治相談役
1877	明治10年	2月 西南の役	(42)宮内大書記官になる 天竜寺滴水禪師に五位を授けられる	(39)陸奥宗光の父伊達自得居士に禅を教えられ、泥舟、鉄舟を知る	
1878	明治11年	廃刀令 大久保利道暗殺される 近衛砲兵隊反乱竹橋事件	(43)北陸・東海地方巡行に供奉 高岡国泰寺越叟禪師に知己を得る	(40)「塩原多助一代記」完成 東両国の料亭中村楼で新作「猫の草紙」口演	圓朝 横浜馬車道「万竹亭」に7年ぶり出演、真景・塩原多助・牡丹の芝居漸人気沸騰
1879	明治12年	沖縄県設置 コレラ流行 靖国神社開設	(44)国泰寺再建に尽力 屏風二百双寄贈	(41)「業平文治漂流奇談」春木座で上演 母すみ歿、浅草金龍寺に葬る	
1880	明治13年	国会開設の動き盛ん 各地で農民暴動	(45)無刀流(剣)を起こす 京都天龍寺の滴水和尚の印可をうける	(42)三遊派因窮の者に家財を質物として救援 息子朝太郎の非行、新聞記事に	
1881	明治14年	参議において伊藤が大隈を追放 板垣自由党 大隈も新党を	(46)天皇の侍従を下りる	滴水禪師に参じ無舌の悟りを開く 三島竜沢寺に朝太郎を托す	コレラ流行のため寄席不況 (50)西郷隆盛戦死
1882	明治15年	天皇が軍人勅諭 伊藤憲法調査に外遊へ	(47)宮内庁辞すも終生御用係を仰せつかる	(44) 寄席の不況つづく 圓遊真打となり、珍芸のみ流行	ステテコの圓遊人気となる・ヘラヘラ踊り 人情噺が主の寄席にナンセンス物が流行
1883	明治16年	岩倉具視死亡 伊藤、岩倉の意志を継ぎ君主主権憲法確立へ	(48)剣道場「春風館」を開く 全生庵(谷中)*『建立西郷隆盛談判筆』	(45) 寄席への統制いよいよ厳しくなる 万橋、ヘラヘラで人気を博す	
1884	明治17年	農民騒動続発 自由党解党 鹿鳴館舞踏会	(49)白隠禪師の国師号宣下に尽力 清水に鉄舟禅寺	(46)「牡丹燈籠」速記出版	
1885	明治18年	太政官制廃止し内閣制度発足 初代伊藤博文総理 薩長内閣	(50)石川永光寺再建に尽力する	(47)「塩原多助一代記」出版	
1886	明治19年	学制公布 参謀本部の設置 外交条約改正会議始まる	(51) 大藏経の書写を始める 胃部に不快症状現れる	(48) 落語家中の親玉との評 外務大臣井上馨等北海道視察旅行に同行	*岩倉具視の要請で『慶応戊辰三月駿府大総督於西郷隆盛談判筆記』を書く
1887	明治20年	伊藤博文神奈川で憲法草案開始	(52) 勲功により、華族に列せられ、子爵を授けられる	(49)井上馨邸にて歌舞伎天覧「牡丹燈籠」春木座で上演	「ノルマントン号事件」起きる
1888	明治21年	天皇の最高諮問機関「枢密院」の設置 伊藤博文初代議長	(53) 7/19結跏趺坐で大往生 7/22東京谷中の全生庵に埋葬	(50)朝太郎、木村ちよと結婚 「塩原多助一代記」春木座上演	
1889	明治22年	大日本帝国憲法発布 第1回来議院議員選挙		(51) 向島木母寺に「三遊塚」建立 やまと新聞連載の「文七元結」出版	
1890	明治23年	第1回来議院議員選挙 第一回帝国議会		(52) やまと新聞「菊模様皿山奇談」連載	(55)泥舟 鉄舟の意志を継ぎ静岡清水「鉄舟寺」の再建に尽力
1891	明治24年	第2回帝国議会 田中正造により足尾銅山問題提議		(53) 圓朝最大の後援者 藤浦周助歿 井上馨邸園遊会で「塩原多助」口演、天聴に	(67)海舟貴族院議員
1892	明治25年	第2回来議院議員選挙		(54)「塩原多助」歌舞伎座上演「塩原多助」修身教科書に掲載、人力車落車負傷	
1893	明治26年			(55)「名人長二」創作にかかる 「後開襟名梅ヶ香」歌舞伎座で上演	
1894	明治27年	日英通商航海条約調印 日清戦争開戦		(56) 08.三周夫人などと伊香保温泉に遊ぶ ヘラヘラの万橋歿	
1895	明治28年	日新講和条約(下関条約調印) 三国干渉遼により東半島放棄		(57) 中央新聞「名人長二」連載 「名人長二」新富座上演「指物師名人長二」出版	
1896	明治29年	八幡製鉄所創業開始		(58) 01.井上馨と興津の別荘に赴く 井上馨還暦祝のため山口へ旅行	樋口一葉「にごりえ」「たけくらべ」発表
1897	明治30年			(59) 皇太后大葬のため京都へ赴く 09.「怪談乳房樓」真砂座で上演	エジソン発明のキネマトスコープ輸入紹介
1898	明治31年	自由・進歩両党が合同し憲政党結成 第1次内閣(隈板内閣)		(60) 寛都30年祭各席巡演「真景累ヶ淵」真砂座で上演 神田佐久間町移転	
1899	明治32年	北海道旧土人保護法制定 山東で義和団ほう起		(61) 09. 発病 10.木原店「牡丹燈籠」最後の高座 下谷車坂町に移転	
1900	明治33年	皇太子(大正天皇)ご成婚 治安警察法公布		(62) 08.11永眠、法名「三遊亭圓朝無舌居士」 谷中全生庵で仮葬	(77)海舟永眠正二位

ボロ鉄時代